

福島市文化財保存活用地域計画(素案)に関する パブリック・コメントの結果について

令和8年1月20日(火)から2月18日(水)まで、福島市文化財保存活用地域計画の策定に関するパブリック・コメントを実施し、市民の皆様等からのご意見を募集いたしましたので、その結果及びご意見に対する回答を報告いたします。

1 意見提出者及び件数 3名(3件)

2 意見の内訳

- (1) 計画全体について 1件
- (2) 第5章 基本方針3 旧広瀬座の活用について 2件

3 意見の概要と意見に対する考え方

このたび、福島市文化財保存活用地域計画(素案)へご意見を賜り、誠にありがとうございました。

いただいたご意見の概要と考え方は次のとおりです。

いただいたご意見については、本計画の策定のための参考とさせていただきます。なお、ご意見の内容につきましては、原文を要約して掲載しております。

No.	章	該当する項目	ご意見の概要	ご意見に対する考え方
1	全体		<p>全体を通して「福島市として、どの時代・どの文化を核に、どのような都市像を目指すのか」という戦略的な方向性やモデル像がやや見えにくい印象を受けた。</p> <p>どの分野を軸として打ち出していくのかを意識した戦略が重要になるのではないかと感じた。</p> <p>市の文化財に限らず、県と市が連携し、各施設や周辺の文化財、都市空間を一体として活用することで、「近代・戦後の建築と教育文化を核とした文化都市」といった、福島市ならではの都市像を打ち出すことも可能ではないか。</p> <p>また、学芸員や研究者、行政職員に加えて、近代の文化を理解し、実際に子育てに関わっている視点を持ちながら教育や地域の現場に携わり企画運営の経験を積んだ「文化プロジェクトマネージャー」のような、行政・教育・市民・観光をつなぐ役割を担う人材を育成・活用することが、まちづくりや次世代に繋げていくための鍵になるのではないか。</p>	<p>福島市ならではの都市像については、市民アンケートや策定協議会での議論を重ねてまいりました。その結果、本計画では、まず「市民が身近な歴史文化に触れること」に重点を置いて事業を推進し、その過程で具体的な都市像の検討を深めていくこととなったため、原案のとおりとします。</p> <p>いただいたご意見は、今後の具体的な戦略や分野を検討する際の参考とさせていただきます。</p> <p>また、専門家だけではなく、様々な立場の市民・団体の方々とも共創する中で、人材育成や活用についても検討して参ります。</p>
2	第5章	基本方針3	<p>旧広瀬座を「観るだけの文化財」ではなく、定期公演、見学・体験プログラム、教育利用、観光連携などを通じ、持続的に人が集う施設になることが求められる。</p> <p>そのためにも、運営体制、財源確保の枠組みを含めた活用の具体化を進めてもらいたい。</p>	<p>旧広瀬座については、ご意見のとおり「観るだけの文化財」にとどまらず、多様な活動に対応できる施設を目指して再整備を進めてまいりました。今後は、演劇・学校関係者や発表の場を求める方々など、多くの方々にも多種多様な形で活用いただくこととしており、準備を進めております。以上の理由から、本計画は原案のとおりとします。</p>
3	第5章	基本方針3	<p>旧広瀬座の活用の具体化にあたっては、本市の絹と養蚕、商業・金融の発展を礎とした国内でも特筆される街として発展してきたことを十分に踏まえた場と仕掛け、そしてありきたりではない魅力的なコンテンツづくりということに特に留意いただきたい。</p>	<p>なお、いただいたご意見は今後の具体的な活用方法の検討において参考にさせていただきます。</p>